



11月の園だより

令和5年11月1日

目黒区立祐天寺保育園 園長

先日の運動会には、多くのご参加ありがとうございました。風が強かったものの晴天にも恵まれ、子どもたちの喜々とした表情や、保護者の皆様の温かく見守る眼差しがとても印象に残るいい会となりました。

さて、実りの秋に4歳クラスと5歳クラスでバスに乗り、芋ほり遠足に出かけました。出発しようとリュックを背負うと、気になるのはその中身です。「はやくお弁当食べたいね」とつぶやきあう可愛い姿がありました。早朝からのお弁当準備ありがとうございました。

いざ畑では裸足になり素手で芋の畝に向かいます。4歳クラスの子どもたちは、なんとなく戸惑いがちに指先で畝を掘り始めたのですが、なかなか芋に到達しません。芋の姿が見えてきても、数日の乾燥からか土が固くしまっていて、掘り進めるのに一苦労です。その傍らで、5歳クラスの子どもたちは、さすがに2度目とあって、切られている弦の元からどンドンと掘り進めます。「やったあ、こんなに大きいよ」との歓声や「今度は5人家族の芋だ」とつながったまま掘り出したうれしさからの歓声があちこちであがっていました。疲れている4歳クラスの子を手伝ったり、掘り残しを最後まで探しては次々に大きな芋を掘りあげたりしてくれました。それぞれが苦労して掘った芋を手にして、最高の笑みになった秋の1日でした。

数日後、園庭で焼き芋にしてみんなで食べました。子どもたちの中では、園での栽培等に加えて、収穫から食へつなげる貴重な実体験の一つとして心に残っていることでしょう。

<行事予定>

歯科検診（全園児）

乳児お楽しみ会（0、1、2歳）

交通安全教室（5歳）

中旬 避難訓練・身体測定

【12月の保護者参加の行事について】

『大きくなったね会』（3・4・5歳児）を行います。
該当クラスの保護者の方は、是非ご都合をつけてご参加ください。詳細は後日お知らせいたします。

園庭の様子

<たんぼぼ組（1歳児）>

「お庭に行こう」と保育士が言うと、「だんごむし（いるかな）」「よーいどん（する）」とやりたいことを教えてくれます。

先日、砂場で3歳クラスの子どもが泥団子を作っているのを横でじーっと見ていた子どもが、ぎゅっぎゅっと砂を握り始めました。「できたかな」と保育士が聞くと、期待を込めた表情でそーっと手を広げました。するとそのまま砂が崩れてしまったので、保育士が「あれ、ないねー」と言ってみると、面白かったようで、手に残った砂を振り落としながら、「あれ」と真似して笑っています。すると、3歳クラスの子どもが「作ってあげようか」と手際よく次々に作ってくれました。それを、そっと掌に乗せて「ほら」と、喜びを伝えてくれました。園庭にいるお兄さんお姉さんとの自然な交流も子どもたちにとっては、楽しい時間になっています。

<ひまわり組（2歳児）>

ダンゴ虫がどこにいるか覚えているので、園庭に行くと早速探し始めます。見つけたダンゴ虫をコップに大事に入れて覗いていると、もう一人の子どもが「〇〇くんも」と自分も欲しいことを保育士に伝えてきました。「入れ物持って探しに行こう」と言うと、最初にダンゴ虫を見つけた子が、察して大きな洗面器を取ってきて渡してくれました。嬉しそうに受け取り、保育士と別の場所を探すと、1.5cmもの大きいダンゴ虫を3匹も見つけました。気にかけて覗きに来ていた最初の子に「ありがとう、大きなダンゴ虫がいっぱい入れられたよ」と伝えると、とても嬉しそうに笑っていました。そのあともダンゴ虫探しはずっと続き、探す友達も増えていきました。好きなことを友達と一緒にしていることが心地よくて楽しい様子の子どもたちです。



運動会後の幼児クラスの様子

<くりす組（3歳児）>

運動会で幼虫から成虫になるイメージで運動遊びをしたことが、今でもクラスの中で続いています。転がってきたボールに当たらないように逃げる中あてドッチボールの時に、逃げる時に虫の真似をして跳んでみたり、ボールに当たると虫かごに見立てた場所に集まったりして楽しんでいます。また、じゃれつき遊びの時も虫になって走って逃げ回り、保育士に捕まえられるのを楽しんでいます。虫のブームはまだまだ続いていきそうです。また、年長児のソーラン節を見てから憧れも抱いたようで「やってみたかったの」という声があがりました。運動会後に一緒に踊ると、大きな声で「どっこいしょ」と声を出しながら嬉しそうに踊っていました。年上の友達に混ざって同じことができることを喜びに感じながら、色々なことに挑戦して楽しんでいます。

<うさぎ組（4歳児）>

きりん組が運動会で行った縄遊びを練習の時から間近で見えてきたので、縄遊びへの興味が広がりました。園庭に出ると、すぐに縄を手に取り「見てて」と、前跳びを試してみようと思いました。ところが、何度も何度も跳んでみても縄が足に引っかかってしまい、上手く跳べませんでした。「どうやったら、きりん組みたいにくるくるんって跳べるんだろう」と子どもが保育士に聞いてきました。「どうするんだろうね」と一緒に考えていると、そばできりん組の子がちょうど前跳びを始めたので、観察することにしました。すると「手を大きくくるんってしてる」と子どもが気づき、早速真似してみようとする、きりん組の子が「リズムの汽車みたいに腕を大きく動かすといいよ」とコツを教えてくださいました。分かりやすく教えてもらったことでやる気も増し、何回も挑戦すると少し跳べるようになった子もいました。頑張ることで自分で出来ることも増え「もっと上手く跳べる様になりたい」と、いう気持ちが膨らんだようです。憧れの年長の姿を見たり、自分で体験したりして学びながら意欲的に活動を楽しんでいます。

<きりん組（5歳児）>

大縄跳びは、大人が回す縄を跳んでいましたが、運動会後は子どもが交代で縄を回して遊ぶようになりました。友達同士で顔を見合わせ、タイミングを合わせて、縄を回したり跳んだりすることが楽しくなり、連続で跳ぶことが出来ると更に歓声も上がっています。子どもたちだけでできることが嬉しく、もっと長く連続で跳びたい気持ちも大きくなり、声を掛け合う姿が自然と出てきています。また、運動会では、2人や3人で短縄を絡めて同時に跳ぶ「仲よし跳び」をしたのですが、「もしかしてきりん組みんなで9人跳びもできちゃうんじゃない？」と、新たな「9人跳び」という目標に向かっての挑戦も始まり、気合十分な子どもたちです。2～3人で跳ぶことは簡単に出来ても、9人全員で跳ぶのは難しいのですがみんなで跳ぶことが楽しくて引っかかっても「楽しいね。よし、みんなでいくよ」と何回も頑張っています。運動会の取り組みを通して育まれた、友達と一緒に取り組む楽しさや、「みんなで力を合わせればすごいことができるんだ」というわくわくした気持ちを大切に過ごしていきます。

